

出資団体台帳

出資団体名	7.乗鞍国際観光株式会社
-------	---------------------

所管課	観光課
担当	

1. 出資団体概要

(令和5年4月1日現在)

①法人分類	株式会社 ()		
②業務分類	観光・レジャー ()		
③主な活動範囲	市内規模 ()		
④所在地	高山市丹生川町坊方2119番地1		
⑤設立年月日	昭和47年9月7日		
⑥従業員数	役員	(常勤) 1人	(非常勤) 9人
	正社員	(常勤) 5人	(内出向)
⑦役員等	役職名	氏名	市所属・職位
	代表者		
	役員		
⑧資本金 60,000 千円			
	出資者	資産種別	出資額 出資割合
	高山市	有価証券	29,000千円 48.3%
	他自治体		0.0%
	その他	有価証券	31,000千円 51.7%
	【備考】		

⑨設立目的			
	定款等に掲げる主な事業内容	現在の実施の有無	主な受益者
	観光開発並びに観光施設の経営及びこれに伴う事業	実施 理由 ()	施設利用者
	索道運送に関する事業	実施 理由 ()	施設利用者
	不動産の取得、管理及び賃貸借	未実施 理由 (会社創設時の定款のまま)	
	山菜地の造成及び水産物養殖に関する事業	未実施 理由 (会社創設時の定款のまま)	
	牧畜及び造園に関する事業	未実施 理由 (会社創設時の定款のまま)	
	駐車場の運営管理業務	実施 理由 ()	施設利用者
	環境に関する調査、観測、分析、影響評価及び保全計画	未実施 理由 (会社創設時の定款のまま)	
	観光案内業務	実施 理由 ()	施設利用者
	公衆用道路の保守管理の受託	実施 理由 ()	観光客
		理由 ()	
⑩地域の関わり			
丹生川地域における地域振興や観光振興の観点で事業展開しており、地域住民からの出資や役員就任により運営されている。 市民にとってシンボリックな存在である乗鞍での事業展開や委託事業を請け負っている。			
⑪市民の関わり			
ほおのき平スキー場、にゅうかわカントリークラブは、市民のスポーツ・娯楽施設として親しまれている。 各事業には地域住民の関わりも強く、地域の雇用促進にも繋がっている。			
⑫経緯			
出資時の状況	S47.9	旧丹生川村地域の観光産業の振興を目指し、村民会社（第三セクター会社）として発足	
	S47.9.19	地域の観光産業を中心とする産業育成を図るために出資 観光産業の1つとして旧丹生川村は、ほおのき平スキー場の開設を目指していた。	
その後の経緯	S48.11.30	増資	
	H13.4.1	増資し、保有株数66,000株となる。	
	H16.10.1	公民館8地区に各1,000株を無償譲渡し、保有株数58,000株となる。	
	H17.2.1	市町村合併により市に58,000株（29,000千円）の出資を継承	

2. 事業概要

①事業	②市事業	③種別	④業務内容、状況、課題等 (施設がある場合は、施設ごとの状況、公共施設等総合管理計画における方針を記入)	⑤事業収支	⑥定性的評価		
					市による 関与の必要性	民間による 代替性	事業の 採算性
高山市指定管理業務	○	指定管理事業	乗鞍バスターミナル 継続 R2. 7月～R3. 6月豪雨災害の影響で閉鎖 R4 指定管理料 1,041千円	黒字	有	有	有
高山市指定管理業務	○	指定管理事業	グリーンパークひろ野 継続 芝生や遊具等の公園施設の管理 R4指定管理料 5,829千円	黒字	有	有	有
岐阜県指定管理業務	—	指定管理事業	乗鞍鶴ヶ池駐車場の維持管理、運営	黒字	無	無	有
乗鞍スカイライン道路 パトロール業務	○	受託事業	乗鞍スカイライン道路パトロール業務	黒字	有	有	有
乗鞍マイカー規制業務	—	受託事業	乗鞍マイカー規制業務	黒字	有	有	有
索道事業	—	団体事業	朴の木平スキー場の維持管理、運営	黒字	無	有	有
ショートコースゴルフ場事業	—	団体事業	にゅうかわカントリークラブの維持管理、運営	黒字	無	有	有
宿泊事業・飲食業	—	団体事業	乗鞍白雲荘、レストハウス雷鳥の経営	黒字	無	有	有
乗鞍環境自然保護員設置運營業務	—	受託事業	乗鞍岳の登山道・遊歩道以外への侵入防止やゴミの投棄防止等の指導 大気環境・植生・水質等調査の実施	黒字	無	有	無

3. 財務状況

(1) 貸借対照表		(平成31年3月31日現在)		(令和2年3月31日現在)		(令和3年3月31日現在)		(令和4年3月31日現在)		(令和5年3月31日現在)		
		平成30年度	第48期	平成31年度	第49期	令和2年度	第50期	令和3年度	第51期	令和4年度	第52期	
項目		決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	
資産の部合計	A	219,736千円	8.9%	214,081千円	▲2.6%	225,630千円	5.4%	243,509千円	7.9%	248,224千円	1.9%	
流動資産	B	38,025千円	30.2%	26,739千円	▲29.7%	58,872千円	120.2%	81,271千円	38.0%	89,364千円	10.0%	
固定資産	C	181,530千円	5.3%	187,190千円	3.1%	166,634千円	▲11.0%	162,142千円	▲2.7%	158,792千円	▲2.1%	
繰延資産		181千円	▲13.4%	152千円	▲16.0%	124千円	▲18.4%	96千円	▲22.6%	68千円	▲29.2%	
負債の部合計		22,658千円	39.5%	28,572千円	26.1%	50,051千円	75.2%	53,769千円	7.4%	49,580千円	▲7.8%	
流動負債	D	22,658千円	72.7%	28,572千円	26.1%	10,051千円	▲64.8%	13,769千円	37.0%	11,247千円	▲18.3%	
(うち借入金)	E	(0千円)		(18,000千円)	#DIV/0!	(0千円)		(0千円)		(0千円)		
固定負債		0千円		0千円		40,000千円	#DIV/0!	40,000千円	0.0%	38,333千円	▲4.2%	
(うち借入金)	F	(0千円)		(0千円)		(40,000千円)	#DIV/0!	(40,000千円)	0.0%	(38,333千円)	▲4.2%	
純資産の部	G	197,078千円	6.2%	185,509千円	▲5.9%	175,580千円	▲5.4%	189,740千円	8.1%	198,644千円	4.7%	
資本金		60,000千円	0.0%	60,000千円	0.0%	60,000千円	0.0%	60,000千円	0.0%	60,000千円	0.0%	
利益剰余金等		137,078千円	9.2%	125,509千円	▲8.4%	115,580千円	▲7.9%	129,740千円	12.3%	138,644千円	6.9%	
健全性指標	債務超過の有無 (G)	目標: 無	無	無	-	無	-	無	-	無	-	
	自己資本比率 (G/A)	目標: 50%以上	89.7%	▲2.5%	86.7%	▲3.4%	77.8%	▲10.2%	77.9%	0.1%	80.0%	2.7%
	流動比率 (B/D)	目標: 150%以上	167.8%	▲24.6%	93.6%	▲44.2%	585.7%	525.9%	590.2%	0.8%	794.6%	34.6%
	固定比率 (C/G)	目標: 100%以下	92.1%	▲0.8%	100.9%	9.5%	94.9%	▲5.9%	85.5%	▲10.0%	79.9%	▲6.5%
	借入金依存度 ((E+F)/A)	目標: 前年比較減	0.0%		8.4%	#DIV/0!	17.7%		16.4%	▲7.3%	15.4%	▲6.0%

(2) 損益計算書

	平成30年度 第48期		平成31年度 第49期		令和2年度 第50期		令和3年度 第51期		令和4年度 第52期	
	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減
営業収益	240,287千円	3.4%	184,007千円	▲23.4%	118,256千円	▲35.7%	108,199千円	▲8.5%	149,841千円	38.5%
営業費用	258,527千円	3.4%	207,265千円	▲19.8%	159,924千円	▲22.8%	131,850千円	▲17.6%	164,444千円	24.7%
(うち売上原価) (対営業収益比率)		(0.0%)	(40,082千円)	(21.8%)		(0.0%)	(14,304千円)	(13.2%)	(23,582千円)	(15.7%)
(うち人件費) (対営業収益比率)		(0.0%)	(26,255千円)	(14.3%)		(0.0%)	(54,690千円)	(50.5%)	(65,834千円)	(43.9%)
〈営業損益〉	▲18,240千円	▲2.8%	▲23,258千円	▲27.5%	▲41,668千円	▲79.2%	▲23,651千円	43.2%	▲14,603千円	38.3%
営業外損益	28,772千円	17.3%	11,879千円	▲58.7%	43,581千円	266.9%	40,308千円	▲7.5%	27,026千円	▲33.0%
〈経常損益〉	10,532千円	55.1%	▲11,379千円	▲208.0%	1,913千円	116.8%	16,657千円	770.7%	12,423千円	▲25.4%
〈当期純損益〉	11,583千円	91.8%	▲11,569千円	▲199.9%	▲9,929千円	14.2%	14,160千円	242.6%	8,904千円	▲37.1%

〈評価分析〉 現金(預金)の増加により流動資産が増加し、自己資本比率も高いため、財務状況は健全な経営状況。営業損益がマイナスで本業は赤字となるものの営業外収益により平成30年度までは黒字化している。平成31年はコロナの影響や雪不足で売上高が減少し赤字となり、令和2年は固定資産売却損の計上により赤字となった。令和3年は経費の減少とともに国・県・市からのコロナ対策支援金や補填金等があり黒字となった。令和4年はコロナ禍からの回復基調があり、黒字となった。今後も健全な運営が見込まれる。

4. 市の財政的関与

区分	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
出資金	29,000千円 (48.3%)	29,000千円 (48.3%)	29,000千円 (48.3%)	29,000千円 (48.3%)	29,000千円 (48.3%)
負担金、補助及び交付金	268千円				
指定管理料	26,455千円	26,771千円	15,385千円	11,574千円	6,870千円
その他	19,202千円	11,117千円	10,267千円	9,782千円	11,181千円

備考
 指定管理料内訳
 ・乗鞍バスターミナル H29 △4,641千円、H30 △5,062千円、H31 △4,185千円、R2 9,556千円、R3 5,745千円、R4 1,041千円
 ・ジョイフル朴の木 H29 25,635千円、H30 25,749千円、H31 25,188千円
 ・グリーンパークひろ野 H29 5,768千円、H30 5,768千円、H31 5,768千円、R2 5,829千円、R3 5,829千円、R4 5,829千円
 その他委託料内訳
 ・乗鞍量平情報機器操作管理業務 H31 39千円、R2 24千円、乗鞍スカイライン道路パトロール業務 H31 11,028千円、R2 10,232千円、R3 9,790千円、R4 11,193千円
 その他 使用料 R3 △8千円、R4 △12千円、R4 雇用調整支援事業補助金 65千円

5. 課題等

項目		市所管課	団体	
S W O T 分 析	内部分析	強み	<ul style="list-style-type: none"> (スキー場) ・標高約1200～1500mに位置し、豊富で良質な雪が自然に降雪 ・初心者から上級者、子供など幅広い客層の利用が可能 ・スキー大会における需要 (白雲荘) ・標高約2,700mに宿泊施設を有し、星空観察や登山客に好評 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然を活かした特色ある施設を数多く有しており、初心者から上級者、老若男女など幅広い客層に利用されている。 ・スキー大会の需要がある。 ・スキー場内に温泉施設がある。
		弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害により施設の使用ができなくなる場合がある。 ・乗鞍バスターミナルは、自然災害による乗鞍スカイライン不通により、利用者数が低迷するなどの影響を受けている。 ・近郊には、都市部からより近い大規模なスキー場がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害により施設の使用ができなくなる場合がある。 ・地域の関わりが大きいとため、外部の視点が少ない。
	外部分析	機会	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍以降における屋外活動への関心への高まり ・他スキー場や近隣スキー場の廃止 ・中部縦貫自動車道の延伸 	<ul style="list-style-type: none"> ・アフターコロナにおいて人の活動が変化し、屋外型施設の利用客の増加が見込まれる。 ・中部縦貫自動車道の延伸による客足の増加が見込まれる。
		脅威	<ul style="list-style-type: none"> ・スキー人口、ゴルフ人口の減少 ・温暖化による雪不足 ・新型コロナウイルスや天候不良、自然災害など予期せぬ事態の発生 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客をはじめとして市外からの来訪者をターゲットとしている施設が多いため、新型コロナや災害、天候不良など予期せぬ事態が発生した際に来客数が減少する。
事業面 (必要性、公益性、採算性、収益性など)		<ul style="list-style-type: none"> ・ほおのき平スキー場は市内では最大規模で、立地や降雪などの条件も良く、市観光施設の中でも重要度が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理事業のうち乗鞍バスターミナルは、豪雨災害の影響により利用者が入山できないため、大きな打撃を受けた。 	
財政面 (財務状況の現状や将来の見通しなど)		<ul style="list-style-type: none"> ・気候変動やコロナ禍の影響による来客数の減少に伴い収入が激減しており、財政状況が悪化している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年は一定の利益剰余金を確保しているが、気候変動やコロナ禍において平成31年度以降の純損益が大きく減少し、厳しい状況となった。 	
施設・設備 (所有する建物や設備等の状況など)		<ul style="list-style-type: none"> ・所有施設全体が老朽化し、建物や設備の改修が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・所有施設全体が老朽化し、建物や設備の改修が必要であるため、多額の費用を捻出しなければならない。 	
組織・人員体制 (役員や従業員等の状況など)		<ul style="list-style-type: none"> ・市職員が取締役、監査役に就任している。 ・役員は、市職員以外は丹生川地域住民で構成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役員や従業員の高齢化が進んでいる。 	
公共施設等総合管理計画 (方針と今後の考え方)		<ul style="list-style-type: none"> ・乗鞍バスターミナル 「継続」(引き続き行政による管理運営を行う。ただし、乗鞍岳全体の利活用を検討する中で、施設のあり方を検討する。) ・グリーンパークひろ野 「継続」(引き続き行政による管理運営を行う。) 	—	
自由記載 (団体や事業の今後のあり方や果たすべき役割について)				